

改善報告書

令和元年7月24日

1. 大学名：東大阪大学

2. 認証評価実施年度：平成28年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

○アジアこども学科の収容定員充足率は極めて低い状況であり、過去5か年において上昇傾向になく、入学者数増の施策について改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目2-1について

オープンキャンパス、高等学校で開催される進路説明会、高等学校教員を対象とした進路説明会及び高等学校訪問等、さまざまな機会に募集要項、大学案内等を配布し、生徒、保護者、高等学校教員に対し、入試広報部の教職員が中心となり全教職員が丁寧に説明し、入学者受け入れの方針の周知を継続してきた中で、平成29年度は日本語学校の新規開拓と訪問に力を注ぎ学生確保に努めたところ収容定員充足率が平成28年度の25.5%から平成29年度は56.6%（1年次入学生43人）となった。平成30年度は68.9%、平成31年度は60.4%と上昇傾向になった。平成31年度は少し下降したが、これは留学生の日本語能力による退学・除籍者が出たことへの反省を踏まえ、平成31年度留学生入試から従来の自己推薦書による個人面接に加え日本語の筆記試験を課し、厳正に日本語能力を測ったことによる不合格者を出した影響が考えられる。今後も退学者防止も含め入試における日本語能力に関しては必須条件として厳しくしていきたい。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目2-1の資料

- ・こども学部アジアこども学科 年度別収容定員充足率（学校基本調査（5月1日現在）より）【資料1】

改善報告書

令和元年7月24日

1. 大学名：東大阪大学

2. 認証評価実施年度：平成28年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：3-6

○財務計画の見直し及び入学者確保の抜本的改善に努め、財務基盤の安定化に向け一層の改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目3-6について

アジアこども学科の収容定員充足率が「改善を要する点」の内容：基準項目：2-1でも記述したように平成29年度より上昇傾向になり事業活動収支の支出超過も減少状態になった。さらに平成27年度から平成30年度にかけて人件費で約3,000万円、管理経費で約510万円の抑制となっている。今後も収容定員充足を目指すとともに経費節減も含めて財務基盤の安定化に向け一層の努力を続けたい。

現在、アジアこども学科の学科名称変更を文部科学省に事前相談中であり、さらに教員免許状の取得も視野に入れ受験生に分かりやすい学科名称に変更し収容定員充足に向けての方策を考えていく。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目3-6の資料

- ・東大阪大学 年度別事業活動収支計算書（年度別計算書より）【資料1】
- 東大阪大学 年度別資金収支計算書（年度別計算書より）【資料1】